

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300156		
法人名	社会福祉法人心愛会		
事業所名	ハーモニー並木 (グループホーム)		
所在地	郡山市並木5-6-7		
自己評価作成日	平成25年6月10日	評価結果市町村受理日	平成25年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成25年7月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

郡山中心部に建てられた施設で周りには公園や飲食店などがあり外出や外食へ出かけたりして生活を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、併設の小規模多機能型居宅介護施設の利用者と共同の年間行事を計画し、誕生会も合同で行うなど、連携を図りながら利用者同士の交流を円滑に行っている。  
 2、災害時避難誘導の対応として、利用者の身体的状況がわかるよう、赤色は全介助、車いす誘導、黄色は、杖歩行、青色は歩行自立者など色別の名札を利用者の居室に下げるなどして、職員が容易に利用者の状態を把握し、緊急時に適切に誘導できるよう工夫がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所と廊下に掲示してあるほか、全職員が法人理念の手帳を所有。朝礼で理念を唱和し共有行動基準にそって実践につなげている。	経営姿勢や就業姿勢などを記載した法人の理念に沿った事業所の方針を掲げ、住み慣れた地域で可能な限り生活できるよう支援するためのケアを職員間で共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや清掃活動など地域の行事や活動に参加し、近所への買い物や食事などで外出の機会を作り交流している。また、市の作品展に利用者が出品するなどの活動も行っている。	町内の清掃活動や行事に参加し、利用者が日常的に地域住民と交流し馴染みの関係が得られるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域向け介護講座・家族向け介護講座を開催や民生委員の勉強会に参加するなどして地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催し、取組みや改善内容について相談したりアドバイスをいただいている。	併設の小規模多機能事業所と合同で定期的開催し運営に関する報告や事故報告などを行い委員からの意見を基に運営に反映させている。議事録については委員の意見・要望等の具体的な内容の記載について検討することとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者・相談員に施設内でのサービス内容や困りごとの相談にのって頂き連携を図っている。	介護相談員が運営推進会議委員に委嘱されており、利用者のケアサービスに対する理解が得られ、行政との連携が図られ円滑な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外研修への参加や身体拘束委員会を構成し月1回のミーティングを通じて身体拘束をしないケアを理解し実践している。テレビ・新聞等の事例を挙げ職員会議で勉強会を行っている。	事業所の管理者をはじめ職員全員や利用者の家族も含めて身体拘束の弊害を理解し正確に認識するために研修に参加するなどして身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束禁止委員会」で具体的な事例等を検討し実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の勉強会に参加し虐待防止関連法を理解し、高齢者虐待防止の取り組みについて委員会を構成し月1回ミーティングを開き自宅や施設内で虐待が見過ごされることがないように注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会は開催しているが、今後は外部の勉強会にも参加し権利擁護に関する制度をより理解し、施設内で話し合いの場を設け必要な支援を行っていけるようにする予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を行う場合に不明な点があれば、その場で十分説明しご理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内外における食事会や家族参加型の行事を開催するなどして話し易い環境を設け忌憚のない意見や要望をお伺いし運営に反映させている。	定期的に開催している運営推進会議や年1回開催の家族会での話し合いの中で意見・要望等聴く機会を設け、運営やケアサービスに反映させている。家族を含めての行事を計画し率直な意見交換の場として活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別カンファレンスや職員会議を通して職員の意見や提案を聴き、内容によっては本部会議に提言し運営や職場環境の改善に反映させている。	法人として職員の意見・提案を取り上げており、給与体系の見直しや職員の正職員化、資格取得支援等職員が掲げる目標を評価し、対応を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格試験取得の取り組みを行い給与水準に反映させたり、個別に面談を行い意見・要望を聴くなどして職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせて勉強ができるように法人内に研修指導の部署があり、研修内容や受講の指示を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部・外部研修を通して同じ環境で働いている人との交流があり、意見交換により仕事に対する意識やサービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時、本人様・家族様と話しをする際は、じっくりと親身になって聴きケアプランに反映させることにより信頼される関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、本人様・家族様と話しをする際は、じっくりと親身になって聴きケアプランに反映させることにより信頼される関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階の本人様・家族様に聞き取りを行い、その時点で最も必要としている支援とその他の支援を見極め、より安心して支援を受けて頂く為それらの内容を検討してサービスを提供しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活上の要望を言い易い人間関係を築くよう職員より積極的にコミュニケーションを図っている。また、できる事は自分でやって頂く・その方にあった役割を持っていただくようにし暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の意向や状態を面会時などにお伝えし情報の共有を図り、必要な支援があれば家族様に協力いただき共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の希望があれば馴染みの理美容室にご家族様の協力で通っていただいている。訪問し易い和やかな雰囲気作りを心がけ家族や友人の面会が継続できるように支援している。	利用者の馴染みの方の訪問や、知人等が事業所で一緒に交流することもあり、気軽に訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。買物も馴染みの店を利用し人間関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士を同じテーブルに配置するなど気兼ねなく楽しく生活して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には本人様・家族様に対し情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常会話や支援時の反応を通して希望や意向の把握を行い、毎月のカンファレンスで検討し、サービス内容に反映させている。	利用者毎のケアチェック表や日頃の会話等から本人の意向を把握し、家族の来訪時には家族の意向の把握に努め、毎月のカンファレンスで検討しながら、本人本位のケアサービスに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・家族様からの聞き取りやサービス提供時に職員が得た情報により生活歴や趣味・なじみの生活の把握を行いサービス利用時に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントの他、日常生活記録や日誌を活用、職員間での情報交換などによって一人一人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または変更必要時にサービス担当者会議を開催し、本人様・家族様・関係者が話し合い介護計画の見直しを行っている。	利用者の身体状況や課題等を職員間で話し合いケアに反映した介護計画を作成している。また、定期的にモニタリングを実施し、介護計画の見直しをしているが、見直しの根拠となる支援内容に即した個別記録の整理が見られなかった。	介護計画の支援内容に即して、提供したサービス内容を具体的に記録・整理することが必要であり、個別記録を基にモニタリングを行い、計画の見直しの根拠として活用・検討することが求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録や日誌に記録された情報を職員間で共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なサービスにならないように、お客様のニーズに沿って柔軟な支援ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、充実した支援ができるように施設で地域資源の把握に努めている。また、運営推進会議の参加者からの情報収集にも努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望に沿った医師となっている。受診は家族の協力を得て対応しており受診結果は連絡帳を利用し家族と共有し適切な医療が受けられるようにしている。	入居以前からのかかりつけ医の受診をしており、症状によってはかかりつけ医の往診もある。受診は出来るだけ家族の協力を得ている。歯科医の往診もある。結果についての報告も共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で利用者のちょっとした変化や気づきがあれば看護師に相談し、個々に適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーを病院に提出し情報提供を行っている。見舞いに伺った際に状態の把握や相談員と連絡を取るなどして病院との連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用時に看取り指針を作成し施設でできることを家族に理解して頂いている。利用者や家族の希望を踏まえ施設内で看取りを行う場合には施設協力医との連携により看取り介護を行っている。	利用開始時に事業所が作成した看取りに関する指針により利用者、家族等に説明し理解を得た上で同意を得ている。また急変時の延命等に関する意思確認書を取り交わしている。協力医との連携により、看取り介護を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での救命講習を交代で受講し、内部研修に於いても訓練を行っている。また緊急マニュアルにより冷静に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と防止計画に基づいた通報訓練を実施している。町内会と周辺の企業に緊急時の応援依頼を行っている。	防災計画に沿って年2回の小規模多機能事業所と合同訓練を行うほか、毎月自主的避難訓練等を行っている。避難時の見守りについては昼間は地域の方の協力体制が整ったところである。エアーストレッチャーを使用し非常階段からの避難訓練を実施している。備蓄は完備してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内研修で接遇マナーや対応の仕方などを学んでおり、通常職員同士で注意し合い意識して言葉かけや対応を行っている。	職員は研修会等でレベルアップをはかっており、職員間でも意識し合って利用者へ接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から積極的にコミュニケーションをとり、思いや希望を表したり自己決定しやすい環境作りを行っている。七夕の時に短冊に願いを書いていただいて希望を表していただく工夫なども行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特別の理由がある場合を除き、できる限り利用者のペースに合わせて希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様と衣服を買いに行ったり、持ってきて頂き季節や好みにあった服装選びができています。また、職員による髭剃り・爪切り・耳掃除、訪問理美容による散髪で身だしなみやおしゃれができるようになっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食材の買い出しに行ったり、野菜を切るなど食事の下準備・盛り付けをしていただくなど、できる範囲で協力して頂き食事職員と一緒に楽しみながら摂るようにしている。	中庭の菜園で採れる季節の野菜を献立に入れている。調理の下準備など、利用者の出来る範囲で手伝いしている。訪問ラーメンボランティアでは、市内のラーメン屋さんの味を堪能した。職員は同じテーブルで利用者とは話をしながら撮っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合った食事形態や量での提供を行い、季節や好みに合った献立作りに努めている。食事制限や摂取量の少ない方には代替物にて対応するなど個人に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きと義歯洗浄を行っている。その際、一部介助・全介助・見守りと個々の力に合わせた支援を行い口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや状態を把握しトイレ誘導や介助を行い自立に向けて支援している。また状態の変化に応じて最適な排泄用品や誘導時間・介助方法をカンファレンスで検討している。	利用者の排泄パターンに合わせた誘導により、日中はトイレ利用である。夜間は利用者の状況に合わせた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、不足している場合は摂取を促したり水分ゼリーを提供するなどして対応している。また腹部マッサージ・繊維質の多い食品の提供など自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状態によって変更もあるが、入浴予定表に沿って週2回以上の入浴支援を行っている。大浴場と個室がありその利用者の状態や希望に沿って使い分けている。季節に合わせて菖蒲湯・ゆず湯・リンゴ湯などを楽しんでいただいている。	個室の場合は、二階の浴室を、利用者同士で入浴する場合は1階の檜の大浴場を利用している。入浴時間は日中の希望する時間に合わせている。拒否される場合は声掛けを考慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活習慣に合った起床時間や就寝時間を尊重している。また冷暖房を個別に調整して寝やすい環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理を行い必要事項は介護職員にも申し送っている。また、生活記録やファイルに個別に薬事がファイルしてありスタッフがわかる仕組みづくりをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族にお聞きしたり、生活していただいている上でその方にあった役割づくりや趣味活動を把握し、それらの活動を通して気分転換を図って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年間行事の中で外出計画を立て自然に触れる機会や買い物・外出・いも煮会などの支援を家族と連携しながら行っている。また近所へ散歩に行くなど日常的に利用者の希望に沿った支援ができるようにしている。	小規模多機能事業所と共同の行事の中に、外出や食事会等が毎月計画されおり、利用者の気分転換を図るよう支援している。また、同法人が運営する他の事業所の行事に参加し交流している。馴染みの店への買い物なども支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため買い物に行くときや急に必要になった物については施設で立て替えして対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節感を感じられるよう花を飾り、利用者の作品を飾ったり夏の陽射しが強い時はグリーンカーテンを設置するなどして寛げる環境を作っている。施設内は業者による清掃が定期的に入り、トレイも汚れをその都度落とすなどして清潔保持に努めている。	グループホームは2階の部分である。空調も照明も快適である。階段の踊場の壁面には行事の写真等が貼られており、季節感を感じさせる利用者の作品や訪問された小学生の礼状等も利用者の目線に貼られている。床の掃除も行き届き、木造建築の良さが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて自由に過ごせる環境と共用空間に於いては気の合う利用者同士で過ごせるよう席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご自宅で使っておられた家具や馴染みの物をご使用いただきご自宅と近い環境で安心して過ごしていただけるようにしている。	家具やテレビ、ラジオ、ぬいぐるみなど自宅から持参し、利用者の好みにあった居室となっている。友人などの訪問時には居室で過ごされる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置位置を工夫したり杖歩行の方の為に洗面台に杖掛けを設置し、また居室やトイレにプレートを貼るなどして安全かつできるだけ自立した生活を送って頂けるようにしている。		